JR西日本 2017.12〜

Guttokuru-Sanin

グッとくる山陰

2017 Winter 冬

ご自由にお持ち帰りください

［特集］

〜『怪談』はほんの一部分〜

小泉八雲とは何者？

［山陰の逸品］

神々の在す国の豊饒

［グッとくるコラム］

現代人が失った感覚を取り戻せる場所へ

佐野 史郎（山陰いいもの探県隊 隊員）

リアルでマニアックな本物の日本がある

クレッツ・ファビアン（山陰いいもの探県隊 隊員）

【表紙写真】大橋川

小泉八雲が教宿した富田旅館（現 大橋館）からの眺め
東の空に向かって白い頂をそびえ立たせている大山の雄姿が望まれる。

現代人が失った感覚を取り戻せる場所へ

島根県松江市からの依頼を受け、2006年より続けている『小泉八雲・朗読のしらべ（「夕べ」改め）』も11年が過ぎた。佐野史郎の朗読、山本恭司のギターによる朗読LIVEに加え、小泉八雲の曾孫であり民俗学者の小泉凡さんの講演により、小泉八雲〜ラフカディオ・ハーン〜の世界をさらに深く味わい、ご理解いただけるようにと毎回様々な作品をお届けしている。

松江はハーンが明治23年（1890）に来日してすぐに英語教師として赴任した町。わずか1年3ヶ月ほどの松江での暮らしだったが、この地で妻セツと出会い、その後子宝にも恵まれて幸せな晩年を日本で過ごした。小泉八雲は『知られぬ日本の面影』の中で山陰各地のことを数多く綴っている。怪談はもちろん、出雲大社、加賀の潜戸、海水浴で訪れた鳥取の八橋の叙景など、読めば明治時代へとタイムスリップするかのようだ。横浜から松江に向かう途中、津山から中国山地を越え、下市（現・西伯郡大山町）の妙元寺で初めて観た盆踊りの描写は殊に圧巻だ。小泉八雲の言葉を携え、ハーンゆかりの山陰路を訪れてみてはいかがだろうか？現代人が失ってしまった感覚を取り戻せるかもしれない。

山陰いいもの探県隊 隊員
佐野 史郎（さの しろう）

1975年、劇団シェイクスピア・シアター（出口典雄主宰）の創設に参加。
1980年、劇団状況劇場入団（唐十郎主宰）。退団後1986年、林海象監督『夢みるように眠りたい』で映画主演デビュー。1992年、ドラマ「ずっとあなたが好きだった」が視聴率30%を超える大ヒット。マザコン男、"冬彦"が当たり役となる。2007年より松江南高校のクラスメイトであり、ロックギタリストの山本恭司と「小泉八雲 朗読のしらべ」をスタート。日本全国各地での公演のほか、ギリシャ、アイルランドでも上演。
鳥取県境港の写真家、植田正治の写真を用いたショートフィルム「つゆのひとしずく」（東映アニメーション／2006）を監督、写真展「あなたがいるから、ぼくがいる」（富士フイルムフォトサロン東京、大阪／2008、島根県立美術館／2010）など写真にも関わり続けている。
ホームページ「橘井堂」はこちら>> http://www.kisseido.co.jp

リアルでマニアックな本物の日本がある

この仕事をしながら気付いたことがあります。日本の観光業において、フランス人観光客は他の国からくる外国人観光客と比べて「マニアック」であると思われていること。確かにヨーロッパの、特にフランスからの観光客は、有名な観光地だけではなくコアな経験を求めていて、多少行きにくい場所でも行ってしまう強い好奇心があるのです。彼らは外国人観光客が集まるような「ザ・定番」の観光地だけでは満たされません。フランス人観光客が求めているのは、人工的に、商業的に出来上がった観光地の経験だけでなはく「リアル」な日本経験なのです。

私ももちろん、マニアックです。島根県の「定番」観光地も大好きで、10回、20回と、仕事でもプライベートでも飽きることなく訪れています。それでも、訪れる数々の場所で一番印象に残るのは「知られていない」、観光客が少ない場所です。島根県にはそういった魅力的な場所が沢山あります。例えば「明々庵」。松江城は島根県の中でも最高の観光地ですが、明々庵はその近くにある比較的いつも観光客の少ないスポットです。それと同じように、足立美術館の庭園や由志園もその完璧な美しさに、毎度驚き、感動しますが、松江の塩見縄手沿いにある小泉八雲旧居の庭園を眺めると、規模は小さくても、感動の深さでは劣ることはありません。

他にも沢山あります。松江の袖師窯や安部榮四郎記念館、美保神社の朝の巫女舞、出雲大社の近くにある北島国造館の滝、安来の清水寺や鍛冶工房弘光、大田市の温泉津温泉にある龍御前神社の夜神楽や熊谷家住宅、津和野の永明寺や堀庭園等・・・。島根県出身の方と島根の好きな場所について会話すると、私の口から出る数々のスポットに驚く方が多いです。きっと皆んなが期待している定番スポットでなく、「マニアック」なスポットだからでしょう。

小泉八雲は欧米人の読者のために本を書いていました。彼の文学を日本人が読むと、日本の文化を新鮮な目で考え直すことが出来たと思います。それと同様に、私のようなフランス人の「マニアック」な視点は、日本の「本物」の魅力を再発見するきっかけにもなり得ることでしょう。

山陰いいもの探県隊 隊員
クレッツ・ファビアン
松江市役所産業観光部
国際観光課国際交流員（フランス）

フランス出身。ストラスブール大学で日本学（学士号）と日本史（修士号）を勉強。2013年−2014年に早稲田大学で交換留学、2014年にJETプログラムを合格し、松江に着任。趣味・特技はハイキング・読書・アナログ写真。外国人の観光客が増えるように、山陰のいいものを欧米の方に一生懸命PRしたいと思います！

2018年夏 運行開始！ あめつち 〜天地の初発のとき〜

グッとくる山陰 冬号
発行元／JR西日本米子支社 鳥取県米子市弥生町2
☎0859-32-0255 ＊記載の情報は、2017年11月30日時点のものです。

実はとっても奥深い！魅惑の「山陰」探県記
山陰 いいもの 検索 右記コードからサイトへGO! →

小泉八雲とは何者？

～『怪談』はほんの一部分～

導かれるように神話の国、出雲へ

小泉八雲は、アイルランド出身の軍医である父と、ギリシャ・キシラ島出身の母との間に次男として生まれました。4歳で母と、7歳で父と生き別れ、16歳で左目を負傷して失明するなど、不遇の子供時代を過ごしています。19歳で単身アメリカに渡ると、文才が認められ24歳で新聞記者になりました。

ニューオーリンズで開催された万国博覧会で日本館を訪れたのは、ジャーナリストとして精力的に働いていた35歳のとき。ここで初めて日本に興味を抱くこととなります。そしてニューヨークで、日本の歴史書『古事記』の英訳『KOJIKI』を読むと、日本への関心はさらに強くなっていったのです。

明治23年（1890）4月、ついに日本の地を踏んだ八雲は、改めて『KOJIKI』を買い直しています。その出雲神話のページにだけ、鉛筆によるかなりの書き込みをしていました。

当初は、自ら雑誌社に持ち込んだ企画での来日でしたが、同年8月、奇しくも、島根県尋常中学校および師範学校の英語教師として松江への赴任が決定。9月には、出雲大社に参拝し、外国人として初めて昇殿を許されています。

出雲大社は、出雲神話の中で、国譲りの代償として建てられた神殿と伝わる大社。来日して間もなく、出雲の国への赴任が決まったこと、大社への昇殿が許されたこと、これらは決して偶然ではなく、確かに導かれたのだと思えてなりません。

八雲にとって慣れない日本での生活をはじめるにあたって、身の回りの世話をするために雇われた女性がいました、旧松江藩士の娘・小泉セツです。八雲はセツを伴って、山陰各地を旅しています。後にふたりは結婚し、三男一女に恵まれるのです。

松江で2度目の本格的な冬を迎える直前に、八雲は熊本の第五高等中学校へ転任することになります。どうやら、山陰の寒さが我慢ならなかったのだとか。その後、出版された代表作『知られぬ日本の面影』（上下2巻）には、松江で暮らした1年3ヵ月の間に体感した山陰を通して、美しい日本の人々と風物が生き生きと描かれています。その後、『日本お伽噺集』、エッセイ・評論集『心』などを次々に上梓。怪奇短編集『怪談』を上梓したのは八雲53歳のとき。永眠するわずか5ヵ月前のことでした。

怪談には向かない季節ですが、「耳なし芳一」「ろくろ首」「雪女」などの出版で知られる文学者をご存じでしょうか。

ギリシャ生まれのアイルランド人で、出生名をラフカディオ・ハーン。日本に帰化して改名した、小泉八雲がその人です。

八雲は、明治23年（1890）4月、40歳を前に来日し、54歳で鬼籍（きせき）に入るまでの14年間を日本で過ごしました。

その間、出雲の国・松江に暮らしたのは、わずか1年と3ヶ月。ですが、八雲が出雲の国に残した足跡はあまりに鮮明で、出雲の国が八雲に与えた影響は計り知れないものだったようです。

※日本名に改名したのは明治29年（1896）2月、45歳のときですが、ここでは通して「小泉八雲」と呼ぶことにします。

山陰いいもの探県隊 隊員
島根県立大学短期大学部教授
小泉 凡（こいずみ ぼん）

1961年東京生まれ。成城大学・同大学院で民俗学を専攻後、1987年に松江へ赴任。島根女子短期大学講師・助教授を経て2009年から現職。2001年～2002年はセントラル・ワシントン大学交換教授。文化資源を発掘し観光に生かす実践研究や子どもの五感力育成をめざすプロジェクト「子ども塾」で塾長として活動する。主著に『民俗学者・小泉八雲』（恒文社、1995年）、『怪談四代記―八雲のいたずら』（講談社、2014年）ほか。小泉八雲の直系のひ孫にあたる。小泉八雲記念館館長、焼津小泉八雲記念館名誉館長、日本ペンクラブ会員。この度、本稿を編集するにあたり取材にご協力いただきました。

国指定史跡 小泉八雲旧居（ヘルン旧居）

八雲が松江での約5ヶ月間を過ごした旧居。居間からは三方に日本庭園が望める。当時のままで保存されているのは、ここ松江の小泉八雲旧居のみ。
島根県松江市北堀町315
アクセス：JR松江駅より、ぐるっと松江レイクラインバス「小泉八雲記念館前」下車
お問い合わせ：TEL0852-23-0714

英訳 *KOJIKI*

日本最古の歴史書『古事記』をイギリス人言語学者バジル・ホール・チェンバレンが英訳した『*KOJIKI*』は、八雲が「出雲」という言葉を知った重要な1冊。出雲神話のページにだけ、欄外にまでたくさんの書き込みがあり、出雲神話への造詣の深さがわかる。

時空を超える、八雲の影響力

偏見を持たない八雲の生き方 オープン・マインド～開かれた心

小泉八雲を、ひと言で表すのはとても難しいことです。54年の生涯で、ギリシャ、アイルランド、アメリカ、カリブ海マルティニーク島と地球を半周以上して日本にたどり着き、幸せな家族を得て日本を安住の地と決めた八雲は、いったいどんな人物だったのでしょう。

八雲が日本に興味を持つきっかけとなったニューオーリンズで、様々な文化が混交し共生するクレオール文化に魅せられたことは重要な出来事でしょう。異文化や人種などに偏見を持たず「人間は混血することで豊かになる」という八雲の価値観はニューオーリンズで成熟したと考えられています。

たとえば、芸術家イサム・ノグチの父で詩人である野口米次郎は「八雲は預言者だ」と評しています。八雲は「西洋中心主義ではいけない、人間中心主義でもいけない、自然との共生が大切である」と語っています。それは、日本やアメリカの未来を案じた警告でもあり、現代を生きる私たちへメッセージを投げかけています。

八雲に対して、「オープン・マインド」という言葉を生み出したのはギリシャ人のアートディーラーで、長年の八雲作品の愛読者であるタキス・エフスタシウス氏。八雲の精神の根本には「開かれた心」があったのだと語っています。

偏見を持たず、世界を客観的に捉える「開かれた心(オープンマインド)」を持ったひと――。そうした八雲だからこそ、人々は惹きつけられずにはいられないのでしょう。

小泉八雲 朗読のしらべ

佐野史郎氏と山本恭司氏による、朗読と音楽で織りなす小泉八雲の世界。10年前より日本各地・海外にて開催し人気を博しています。
お問い合わせ:TEL0852-55-5517
(松江市観光文化課)
Photo:©Matsue City
公式Facebook:www.facebook.com/Lafcadio-Hearn-Reading-Performance

傑人にも影響を与えた独自の審美眼

八雲作品の愛読者のひとりに、バーナード・リーチがいます。八雲の作品を通して東洋に対する好奇心を芽生えさせて、リーチは日本の地を踏みました。松江には5度ほど訪れ、布志名焼の舩木工房に滞在して作陶・指導を行ったり、安部榮四郎の出雲和紙をイギリスに紹介もしています。

また、八雲は、民芸運動を提唱した柳宗悦にも影響を与えていたのだそう。柳は「朝鮮においての八雲になることを目指した」ともいわれているのです。志賀直哉も文章を書く上で八雲をとても参考にしたと回想しています。

独自の審美眼を持っていた八雲は、松江の町を散歩することが好きでした。その途中、よく立ち寄ったというのが寺町の龍昌寺です。境内で異彩をはなつ小さな石地蔵に目をとめた八雲は、その非凡さに驚き、作者である彫刻家・荒川亀斎を訪ねて意気投合。1893年(明治26)に開催されたシカゴ万国博覧会に出展した亀斎の作品は優秀賞を受賞、出雲大社に奉納されています。

時を超えて人々を魅了する色褪せない作品の力

八雲は、セツ夫人が語った日本各地に伝わる昔話や民話などを、鋭い感性で語り直して『怪談』を代表とする独特の再話文学の著作を生みました。英語表記『KWAIDAN』は、セツ夫人の出雲弁「くぁいだん」をそのままタイトルにしたものだそう。

随想集『仏の畑の落穂』の中の一編では、「勝五郎の転生」で、日本人の死生観を探求。八雲がこの作品で、実際の出来事を元に生まれ変わりの一例を海外に紹介したことで、現在、バージニア大学では、前世の記憶の研究が行われています。

2006年から恒例となっている「小泉八雲 朗読のしらべ」は、朗読を佐野史郎氏が、音楽を山本恭司氏が担当する、松江でスタートした朗読パフォーマンス。現在では、全国各地で開催され、さらには生誕地ギリシャや、少年期を過ごしたアイルランドなどでも公演され、好評を博しています。

2008年からはじまった「松江ゴーストツアー」は、『怪談』の舞台となる現地を体感するもの。現在まで、5000人を超える参加者を集めています。

八雲は、文学が持つ力を次のように捉えています。「世論を形成していく真の力は文学にある。」「超自然の物語(怪談)には、一面の真理(truth)がある。その真理に対する人間の関心は、100年、200年後も変わることはないだろう」と。

八雲の作品は研究の対象として、地域振興の源として、今なお人々を魅了し続けています。

龍昌寺

八雲が散歩の途中に時折、立ち寄った寺。ここで彫刻家の荒川亀斎が作った小さな石地蔵を見つけた。今ある地蔵は2代目だが、復原像が小泉八雲記念館にある。
島根県松江市寺町136
アクセス:JR松江駅から徒歩約10分
お問い合わせ:TEL0852-21-6256

小泉八雲庭園

八雲が子どもの頃しばしば訪れたアイルランド南部ウォーターフォード州トラモアに2015年にオープンした庭園。海を見下ろす1ヘクタールの土地に、八雲の生涯を伝える9つの庭があり、それぞれにストーリーがある。新しい地域資源として注目されている。
photo:©Lafcadio Hearn Japanese Gardens
Website:lafcadiohearngardens.com

受け継がれるボーダーレスな世界

八雲を語るとき、このひとの存在は欠かせません。八雲のひ孫、小泉凡氏です。まず気になるのは、その名前。名付け親は、凡氏の祖父である小泉一雄、八雲の長男です。由来は、八雲マニアといわれる米国の軍人、ボナー・フェラーズ。戦後、マッカーサー元帥の副官として来日したボナーは、昭和天皇を東京裁判にかけてはならないことを元帥に進言した日本にとってとても重要な人物。一雄とは親友の間柄で、初孫にボナー(Bonner)からBonをいただいて〝凡〟と名付けたのです。

2015年、八雲ゆかりの地アイルランド・トラモアに「小泉八雲庭園」がオープンしています。きっかけは、凡氏が、7歳の八雲が父親と最後に会った場所であるトラモアを訪問したことでした。

この世を去って113年が過ぎた今も、八雲にまつわる新しい何かが今もどこかで動いています。オープン・マインドで見つめたボーダレスな世界とは、どんなに素晴らしい未来なのか――。私たちには、八雲から教えられることが、まだまだたくさんあるはずです。

小泉八雲記念館

作家・小泉八雲を知る基本情報を、遺愛品の展示と解説を通して紹介。記念館東隣には、小泉八雲旧居がある。
島根県松江市奥谷町322
アクセス:JR松江駅より、ぐるっと松江レイクラインバス「小泉八雲記念館前」下車
お問い合わせ:TEL0852-21-2147

神々の在す国の豊饒

へるん先生愛用の蓮葉皿

袖師窯は小泉八雲が称える夕日の美しい宍道湖岸の名勝地であった袖師浦にあります。地元の粘土・原料を使用して作られた器たちは、暮らしに馴染み良く、簡素の中にも潤いが感じられます。小泉八雲は北堀町に住んでいた頃、蓮池とそこに棲む蛙を大変好んでいました。それ故、ペン先を入れるための皿は蓮葉と蛙を配したものを愛用。袖師窯で作られる「へるん皿」はその愛用していたお皿を写して作られたものです。お香立てや小物置きなどとしてへるん先生の趣向の品を日常生活でお楽しみください。

尾野 友彦さん

蛙の背中にお香を立てられます

へるん皿 2,000円
※数に限りがございます

[取扱店]
○松江駅のおみやげ楽市

有限会社袖師窯
島根県松江市袖師町3-21
☎0852-21-3974
https://www.facebook.com/sodeshigama/

ゆず果汁たっぷりの爽やかリキュール

斎藤 寛之さん

寒い冬にはホットもおすすめ！

米田酒造は明治期に創業し、神と酒にまつわる神話が伝わる神々の国の首都・松江で清酒「豊の秋」を造っています。日本酒の新たな飲み方の提案をする中で、島根の特産農産物を使用した「島根の地カクテル"として「ゆず酒」が誕生。県下随一のゆず産地・益田市美都町産のストレートゆず果汁と島根県産米100%使用の豊の秋 純米酒をブレンドした「豊の秋ゆず酒」は、ゆずの自然な風味がいっぱいのまるでジュースのようなソフトな飲み口で女性にこそおすすめです。ソーダ割などお好みでお楽しみください。

豊の秋 ゆず酒（500ml）
1,296円

[取扱店]
○鳥取駅のおみやげ楽市
○米子駅のおみやげ楽市
○松江駅のおみやげ楽市
○出雲市駅のセブン-イレブン ハートイン

米田酒造株式会社
島根県松江市東本町3-59
☎0852-22-3232
http://www.toyonoaki.com

旨みが段違いの万能みぞれソース

出雲おろち大根は、島根県東部に自生するハマダイコンを品種改良した出雲原産の辛味大根で、出雲神話の「ヤマトノオロチ」のようにひげ根が多く、キリッとした辛味と強い旨味が特徴です。その出雲おろち大根と島根県産のゆずをブレンドした「出雲おろち大根みぞれソース」は、あっさりなのにコクと旨みが凝縮されており、爽やかな風味が肉料理や魚料理と相性抜群。素材の旨みを引き立たせる万能ソースなので、お好みで様々な料理にお試しください。

森山 太史さん

サラダやお刺身にもおすすめです

出雲おろち大根 みぞれソース（200ml）637円

[取扱店]
○鳥取駅のおみやげ楽市
○米子駅のおみやげ楽市
○松江駅のおみやげ楽市
○出雲市駅のセブン-イレブン ハートイン

食の縁結び市場 山太
島根県出雲市大社町北荒木172-6
☎0853-25-8378
http://jigemonshop.net/?pid=92131572

奥出雲地方たたらゆかりのお米

約1000年の歴史を持ったたら製鉄。砂鉄採集のために掘り崩した山地は水田へと転用され、広大な棚田が生まれました。その壮大な歴史と景観を残す島根県奥出雲地方のお米セット「たたら風土記米」は、松江の老舗お米屋のごはんソムリエが厳選した逸品。「出雲國仁多米」はお米の世界で西の横綱と言われるブランド米です。吉田町「うやま米」は中国地方有数の豪雪地帯吉田町宇山地区で清らかな雪解け水で育てられたお米です。プレミアムつや姫「たたら焙米（ほむらまい）」は、専用肥料による土づくりや大粒選別なと厳しい基準をクリアした新ブランド高品質米。肥沃な土地が生んだ絶品のお米を是非ご堪能ください。

藤本 真由さん

ごはんソムリエが島根米を厳選しました！

たたら風土記米 3種セット 1,980円
【出雲國仁多米［2合］】
【吉田町 うやま米［2合］】
【プレミアムつや姫 たたら焙米（ほむらまい）［2合］】

［取扱店］
○松江駅のおみやげ楽市
○出雲市駅のセブン-イレブン ハートイン

有限会社藤本米穀店
島根県松江市東本町3-15-1 ☎0852-21-2900
http://www.fujimotobeikoku.jp

徹底した品質宍道湖自慢の特産

島根県東部に位置し、八岐大蛇神話が息づく奥出雲から流れる斐伊川の清流と日本海の海水が入り交じる汽水の湖「宍道湖」。その栄養豊富な宍道湖の代表的な特産品といえば全国的にも有名な大和しじみです。中でも有限会社宍道湖が取り扱うしじみは、なるべく負荷を与えない漁法、丁寧な選別と砂抜き、徹底した品質管理で真心込めて大切に作業が行われています。旨み成分たっぷりのしじみは、味噌汁でいただくのが一番のおすすめ。

原 昭一さん

自慢の大きさと旨みをご堪能ください

俺たち自慢
大粒大和しじみ（レトルト）
4食入り（120g×2）1,300円

［取扱店］
○鳥取駅のおみやげ楽市
○米子駅のおみやげ楽市
○松江駅のおみやげ楽市
○出雲市駅のセブン-イレブン ハートイン

有限会社宍道湖
島根県出雲市斐川町荘原2750-6
☎0853-72-0313 http://www.sijimi.com

相撲の開祖をゆかりとする島根の銘菓

「野見宿禰（のみのすくね）」は相撲の開祖と言われる出雲国の勇士。あらゆる功績と文武両道の生き方を敬い、坂根屋二代目が「宿禰餅（すくねもち）」を大正元年に考案しました。島根県産のゆずと国産胡麻の二種とし、日数を経ても柔らかく美味しくいただける練り求肥で作られています。昔から変わらぬ製法で、しっとり柔らかい上品な食感。第十七回全国菓子博覧会最高位総裁賞を受賞した出雲を代表する銘菓です。パッケージは相撲の土俵をデザイン。紙相撲が出来るように相撲取りの人形も同梱されています。

宿禰餅（9個入）702円

［取扱店］
○鳥取駅のおみやげ楽市
○米子駅のおみやげ楽市
○松江駅のおみやげ楽市
○出雲市駅のセブン-イレブン ハートイン

宿禰餅本舗 坂根屋
島根県出雲市今市町890
☎0853-24-0011
http://sakaneya.jp

坂根 壮一郎さん

奥出雲産の餅粉を使用しています

左記マークのついた商品につきましてはJR駅構内の店舗などで取り扱っております。 ※掲載商品の金額はすべて税込表示です。